こ こ ろ 医 療 福 祉 専 門 学 校 佐 世 保 校

令和６年度第１回教育課程編成委員会議事録

１　日 時　令和６年７月２１日（日）１０：００～１１：００

２　場 所　こころ医療福祉専門学校佐世保校 ５階 ５０３教室

３　委 員　出席：髙橋　賢一郎（公益社団法人　長崎県柔道整復師会）
上田　陽介（純心整骨院）
中野　仁、久野　貴史、池田　智恵

（敬称略）

４　主な内容

（１）開会のことば（校長　中野）

本会の開会目的及び配付資料の確認を行う。

（中野）規定により、議事録をウェブ上で公開する。議事録作成後、委員に回覧し、公開前の確認あるいは修正をお願いする。今回事前にお伝えした審議の事項についてその内容を改めて説明する。

（２）教育課程編成委員会

ア　柔道整復学の実技授業について

（中野）現行のカリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の３分野で構成されている。「専門分野」の中にある「柔道整復実技」が１７単位以上（１単位：３０～４５時間）と規定されており、本校では、３年間で１１科目の授業を展開している。内容は主に「包帯固定学」「柔道整復学・理論編」及び「実技編」の教科書から抜粋し、実施している。また、３年次に実施される「認定実技審査」の出題項目も、実技授業の４科目程度を充てて実施している。しかし、教科書に記載している全ての外傷を実技授業で実施することは困難なので、現代に即した外傷を選択し、可能な限り、施術の基礎技法を習得させたいと考えるが、どのように外傷を選択し、指導すべきか。

（髙橋）理想としては全てをするのが良いが、線引きが難しい。整骨院が増えて外傷が少なくなっている。整骨院で多く来院される部分を判断していき、卒業して働く際に役に立つように勉強しておくと良い。高齢者が増えているので高齢者に多い外傷、スポーツ人口増加のスポーツ障害による外傷、軟部組織のテーピングの実践など授業で必要ではないか。

（上田）外傷の全てをしたとしても卒業した時に全て頭に入っているかどうか疑問。全部をするのは難しそうなので現状の整骨院で多い外傷をピックアップして取り組むのはどうか。実技では問診の重要性を教えてもらいたい。急性なのか、神経性なのか、どういった経緯でなったのか、コミュニケーションを取り、症例を判別できるかが重要。患者が今後どうしたいのか、足関節の捻挫は包帯をきつめに巻くが、骨折していた場合、どんどん腫れてくるのでそういう場合には包帯を緩めてくださいなど、伝えられるようにという教えも必要。

（久野）基礎疾患を踏まえての外傷の治療や診断、他病院との連携も増えていくと考えられるので、実際の体験談を踏まえて指導をしていきたい。同じスポーツ外傷でもステージの違いがあるので、全てを同じ内容で指導するのではなく、より詳しく学習しなければならないが、時間が限られている中で苦慮している。

（髙橋）基本が大事。固定の作成など行っているか。

（中野）固定の作成は行っているが、昨今の価格高騰で以前ほどバラエティーに富んだものを作ることは難しくなっている。包帯も綿包帯だけなので現場で多く使われている伸縮性の包帯を購入し、違いを体験させようと考えている。テーピングについては回数を重ねて時間を割いて取り組みたい。

イ　認定実技審査について

（中野）毎年、３年次後期に実施される「認定実技審査」の出題基準、出題項目は、令和４年度より別紙資料内容となっている。「認定実技審査」の出題項目が、国家試験の必修問題の出題基準にもなっている。現行の出題項目の感想と、受験に際し、どのような点を学生に指導させると良いか。

（上田）出題基準の項目は全部必要かと思う。実際に現場に出たら足りないくらい。

（髙橋）全部を行わなければならないかと思うが、実際は多いと思う。先生も学生も大変ではあるが、時間を要しても繰り返し繰り返し、何度も実技を行うのが大切と考える。特に大事になってくるのはその動作の基本を忠実に守ること。動作自体は下手でも基本を大事にすることが必要。動作しながらその行動の説明を同時にできるように、動作自体は下手でもいいから基本を大切に表現するということが一番のポイント。

（久野）将来的に考えると全ての外傷に対応できるように指導していかなければならないと考える。

（上田）実際の臨床の現場と想定し、患者のことを考えた安全性・安心感を与えるコミュニケーション能力、衛生面の考え方の指導も行ってほしい。

（久野）衛生面で言えば巻いている包帯が床に触れていたりするので注意を行っている。
臨床実習に出た際に困らないよう事前指導をしている。

（中野）色々と貴重なご意見をいただいた。参考にさせていただく。

（３）教育課程編成委員会の閉会

（中野）次回は１１月頃を予定している。
今回ご意見を議事録によって内容を確認し、報告をする。